

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104401		
法人名	テルウエル西日本株式会社		
事業所名	NTTグループケアポート広島認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	広島市南区比治山本町11-1 (電話) 082-250-1280		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104401-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居されている皆様には施設理念「支えあい共に創る生活」と生活リハビリという視点で、イリコの頭とり、食器洗い、お盆拭き、新聞折り、掃除、洗濯物たたみ、歌の選曲、食事のメニュー書き、TV体操等自ら得意な分野で、毎日の成功体験を積み上げ、人の役に立っているという充実感を味わい暮らしを共に楽しんでいきます。スタッフとともに、リビングの壁に季節感のある作品を展示しています。初詣、梅見、花見、花火、盆踊り、芋ほり、菊見、亥の子、クリスマス、ドリミネーション見物、畑での農作物の収穫を通じて、四季を感じていただいています。また脳の活性化のため、毎月の音楽療法と粧いの日には日頃化粧をされない方も口紅、マニキュア等や自分で選んだゆかた、帽子、毛皮着用を楽しんでもらっています。レクリエーション時の口腔体操の吹き戻し、毎週の歯科衛生士による口腔内チェックと、疾患予防にもなる毎食後の口腔ケアに努めています。生き々交流として、保育園児の敬老の日やクリスマス訪問、中学生の職場体験学習、介護福祉専門学校の実習生の受け入れ、認知症高齢者についての相談、認知症サポーター養成講座の講師派遣等の地域貢献にも力を入れています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「家族と共に生活する自宅が第一、その次にこのグループホームが存在する」と、管理者は強調している。家族の愛情と絆に勝るものはない、との発想から「家族と共創のケア」を事業所の特徴としている。「私たちスタッフは、よき利用者、家族に恵まれ幸せです」の言葉も聞かれる。自宅の「普通の生活」の実現…家事、外出、教養、近隣住民と自然な交流など、多岐にわたるケアの取組みは、スタッフと家族の支えあい、地域社会との強いつながりの好循環から生みだされている。</p> <p>その背景には、NTTグループとしての組織力、運営母体の社名でもある「ウエルフェア」のDNA、管理者自ら向学の姿勢を示す強い指導力、人生の先輩から学び、ケアの現場から学ぶとる感性「育てる力、育つ力」が存在している。この「優れた介護力」は、スタッフの明るい笑顔と日々の地道な研鑽、水面下の働き「アヒルの水かき」の成果であり、その評価は高いものがある。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「支えあい共に創る生活」を、毎朝のミーティングでスタッフ一同唱和し、日常生活の中で共通の認識のもとに、自然に実践できるように努めている。その日勤務していないスタッフには連絡ノートを使い、情報共有を図っている。	「支えあい共に創る生活」は、グループホームの創設時に、当時の施設長およびスタッフにより討議、発案された完成形の理念である。その実現に向けて、朝の唱和を基本に、家族との情報共有を図り、日々の生活の中で、地道な思考と実践を続けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事である盆踊りに椅子席を用意してもらって参加し、一緒に踊ったり、子供会の亥の子祭と一緒に綱を握り歌って楽しんでいる。敬老の日やクリスマスには、近くの保育園児の歌や踊りの訪問、中学生の2日間の職場体験学習を受け入れ、手作りおやつ等一緒に作っている。介護専門学校の生徒の介護実習Ⅰ、Ⅱも受け入れている。	地域への優れた情報発信が功を奏し、このグループホームの存在が地域住民に十分に認識され、左記の各種行事が実現している。いつでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくり、居心地の良さ、「支え合い共創の生活」の理念の実践の一端が観察される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター、市の依頼で町内会、事業所、銀行、県立高校衛生看護科で認知症アドバイザー養成講座の講師を派遣したり、来所や電話での相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の目安で開催している運営推進会議に家族、地域包括支援センター職員、民生委員、歯科衛生士にも参加してもらい、取組みの報告、地域や行政の情報を含め、意見交換をおこなっている。	出席者数が多く、事業所に隣接の比治山集会所を活用している。家族の意見、要望を中心に、グループホームの日々を、外部の視点から更なる改善に向け、討議を重ねている。詳細な議事録の記述は秀逸で、グループホームの現在を忠実に伝え、情報共有に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	「南区の食と風土を考える会」に参加したり、市の要請を受けて認知症アドバイザー養成講座への講師派遣も行っている。	市町の行政機関が近くに在り、連携の取りやすい環境にある。市の要請を受け「認知症アドバイザー養成講座」への講師の派遣や、近くの県立高校の「衛生看護学科」の講師など、多様なニーズに応える人財を揃え、協力関係を円滑化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアルは作成しているが、今まで実地に至ったケースはない。</p>	<p>マニュアルおよび法的基準を十分に周知徹底のうえ、「見守りを適切に行えば、『拘束』はあり得ない。」との共通認識によりケアにあたり、その事例は発生していない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフを外部講習に参加させ、それを部内研修で全員に周知し、ミーティングや日常業務を通じて認識し合い、施設としても重要な取り組みの1つとしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の趣旨、内容について理解しており、管理者は成年後見人養成講座を受講し、制度を活用できるようにしている。実際に家族にお願いして、制度の活用をして貰っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書の内容、運営規程、重要事項説明書について説明をし、日々の生活での個別対応や将来の希望等をお尋ねして、ケアの方向性を一緒に考えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者は24時間携帯電話でご相談に応じる体制にしている。ご利用者の状況は、毎月担当スタッフからご家族に手紙で報告し、来所時に説明し、意見を貰っている。カンファレンスも、ご家族の希望の日時での設定を心掛けている。苦情等の外部機関については、重要事項説明書に記載・説明している。</p>	<p>この事業所は、家族と密につながったケアとコミュニケーションの円滑化が特徴である。家族の意見・要望への即時の対応が好評で、運営推進会議の家族の発言、家族アンケートの行間等から、相互に「感謝」の言葉が交わされている情景が読み取れる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関する意見・提案については、日々の申し送り時や、毎月のミーティングの中で意見交換して、運営の参考にしている。</p>	<p>管理者がスタッフの意見を積極的に聞き取り、風通しの良いグループホームの運営である。特に、運営母体本部への言い難い意見、要望事項も管理者が代弁し、その実現を図っている。</p> <p>評価当日の職員面談からも、その解決の諸事例が確認された。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>労働条件や評価については、社内規定による。自己研鑽のため、会社の費用負担による通信教育講座受講の奨励や「資格取得奨励金制度」を設けており、スタッフの向上心を高める環境づくりを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>スタッフの資質向上は必須のため、部内研修は医師・薬剤師・アロマ講師等呼び、毎月開催している。出来る限り部外研修に参加し、学んだことを部内研修講師を務めることにより深く理解し、いかにしたら解りやすく人に教えられるかの学びの場としている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>「グループホーム事業者交流会」にも参加しており、活動を通じて利用者の紹介、空き部屋情報の共有等ネットワークを構築している。施設見学を兼ねた交流会、介護や認知症、看取りのグループワーク、講演会、研修会には都合のつくスタッフをなるべく多く参加させている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>安心・安全・快適な生活を送っていたくためご本人の話をよく聴いている。ご利用者毎、個別に担当スタッフを決めている。カンファレンスにご利用者本人、ご家族の参加をお願いし、本人の希望や家族の希望をお伺いして、ケアプランを立てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み、見学があった時点からいつでも相談を受け、利用にあたってはご利用者の状況とご家族の意見や希望をお聴きし、ケアプランにより実行している。利用されたら当分の間は、毎日、ご家族に状況を電話でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族と意見交換しながら、暫定ケアプランを策定し、ご利用者一人ひとりの状況と必要に応じて、外出援助や通院介助や福祉用具使用等のアドバイスも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設の理念そのままに、ご利用者各自のレベルにあった生活リハビリテーションを取り入れ、メニュー書き、洗濯物たたみ、イリコの頭取り、掃除の手伝い、畑での農作物の収穫手伝い、スタッフとの壁紙作成等お願いしたり、一緒に協力し合って生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の皆様にもご利用者に対する「支援の在り方」として、行きつけの美容院へ同行、行事の外出、墓参、自宅への外泊、通院等に同行をお願いして、変化をご理解いただき、一緒になって支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご親戚、知人、友人の方々が気軽に来ていただける雰囲気がある。趣味の継続、行きつけの店、自宅への外泊、外出、通院など、都合のいい時にいつでもどうぞとお願いしている。	大正・昭和・平成の時代を生き抜いてきた生活歴・職業歴を把握した支援を基としている。偶然に旧制高等学校の同期生が、このグループホームで再会した事例もあり、弊衣破帽の青春時代を語り合う場面もあった。平成の新しい出会いも多く生まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングに出ておられる方が多いため、おしゃべりに花が咲いたり、誕生日、日々のレクリエーションの席もお好きな所に座ってもらっている。食事の席はおしゃべりを楽しんで食事ができるよう、熟慮して決めている。起床やおやつ時は声を掛け合っておられる。食事中はTVを消している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族から電話をいただいたり、来所されて近況をお知らせいただいたり、一人暮らしになられた御家族に電話したり、機会をとらえて他施設や病院にお見舞いに伺うなどして、つながりを大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスは、基本的にご本人やご家族の参加をお願いしている。ご本人やご家族の希望を聴いて、担当スタッフによるモニタリング、日々の生活を通じてスタッフが把握していること等もふまえ、意見交換を行い、ケアマネージャーがまとめている。	「笑顔で暮らせる生活」の創造をコンセプトに、スタッフの観察眼を磨く指導を徹底させている。「なぜ、この行動が出るの？」「なぜ、その言葉が出るの？」と、長い生活習慣から表出される言葉に出ない感情と思いを、上手く引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の把握が大切になるので、入居前の聞き取りをしっかりと行い、入居されてからは日常会話からの情報を得て、担当スタッフが本人の似顔絵とともに、本人の思いを本人シートに書き入れ、スタッフも聞き取ったことを書き足している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝夕の申し送り時にバイタルチェック、入浴、排便、服薬、食事摂取量等踏まえ、各自の心身の状況を詳しく申し送り、気を付ける情報を共有している。起床、就寝、食事時間、形状等は、ご利用者の習慣、能力を考慮して、おり一人ひとりに適した生活リハビリテーションを提案して、日々の達成をチェック表に記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>それぞれの方に担当を決めており、毎月、モニタリングを行い、月末に手紙で様子を知らせてご意見をもらったり、主治医や歯科衛生士からの情報も取り入れ、その人らしく暮らしていただけるよう、ご本人やご家族の意見や希望を取り入れ、ケアプランを作成している。</p>	<p>利用者ごとにスタッフ担当制を採り、ケアマネジャーも定期的に夜勤をして、夜間の動きも観察のうえ、毎月のモニタリングを行っている。家族との綿密な連絡と要望聴取、主治医・歯科（歯科衛生士）の口腔ケアの重要性を織り込み、利用者の「やる気・意欲を引き出す」介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、オリジナルの日誌と個別の生活状況記録をつけており、全体のスタッフ共有連絡ノートと1F独自のご利用者に関する事、ご家族からの連絡、スタッフの周知事項等記入した連絡ノートで、スタッフ間で情報の共有に努め、小さな変化にすぐ対応できるようにして、ケアの実践の中で生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>統一的でなく、個々の状況や要望に沿ってサービスメニューが変わることがある。趣味、レジャーでの外出や催し物の案内、急な通院、入院等必要な付添いや（介護）タクシーの手配。デイサービスのレクリエーション参加の誘いに応じたり、グループホームだけでない生活の広がり支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会、老人クラブ、消防署、中学校、保育園、地域保健センター、地域包括支援センター、ボランティアサークル等と連携したり、買い物がてらの散歩等、その人らしい生活が続けられるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設として提携医があるが、ご本人やご家族が今までのかかりつけ医や病院の通院を希望されれば、基本的には家族対応をお願いして、ご本人が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>「口腔ケアは、全身疾患の改善につながる」として、開設時から力を入れている。提携医のほか、歯科、耳鼻科、外科など、その人に合ったかかりつけ医と、信頼関係と絆を大切に受診を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	内科ドクター、訪問看護師には毎週往診に来てもらっており、夜も含め対応してもらっている。退院後、2週間は訪問看護も使える場合はお願いしている。外科も受診や緊急時には速やかに対応してもらっている。皮膚科、歯科、耳鼻科にも往診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院・退院にあたっては提携医、病院の地域医療連携室と情報交換をしながら、ご家族の希望を聞き、ご本人にとって最善の対策をたてるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化された場合や費用面も含め、入居時に特別養護老人ホームへの申し込みをお勧めしている。看取りに関しては、5年前よりスタッフに研修を受講させ、看取りも視野にいれて準備してきている。提携医、ご家族とも相談して、外部の受け入れ先のご紹介も行っている。	重度化および「看とり」には、医療連携加算の事務処理を経て、時流に沿い、家族の要望に合わせ柔軟に対応している。とくに、介護老人保健施設とは異なり、グループホームとしての終末期のあり方を重点化している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の指導による救急救命研修に参加したり、提携医による高齢者に対する緊急時対応、処置についての研修を行って、実践力を高める努力をしている。AEDも配置して、使用訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	深夜時間帯を想定して、夜勤2名体制での消火避難訓練を消防署の立会指導のもとに実地している。災害対策物品の備蓄もしている。	定期的な訓練の実施、ハザード・マップの地形も考慮した取組みをしている。いざの時の災害に備え、物品備蓄にも、利用者の体調に応じた「食べ易いもの、おいしいもの」をと、スタッフの優しい配慮も加味している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人としての尊厳を守っていくことは企業としての理念であるため、プライバシーマークを取得しており、社内研修でも学んでいる。スタッフはその指針に沿ってミーティングを行い、意識づけて行動している。	個人情報保護の体制を整備している事業者を認定する制度「プライバシーマーク」を取得し、その「Pマーク」を各スタッフの名刺に印刷して意識統一を図るなど、洗練された対応が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者自身の意思を大切にしていこうという方針と結びついており、ご利用者に寄り添ってお話を伺い、思いを実現できるように支援している。レクリエーション等も、声掛けはするが自己決定にお任せしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝時間は、生活習慣に合わせながら昼夜逆転にならないように、生活リズムを徐々に整えるようにしている。生活リハビリテーションを取り入れ、役割を担って頂いている。食事に時間がかかる方は少し早めに食事を食べ始めてもらうなどの気を配り、それぞれの日々の状況に沿ったケアをこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節によって衣類を入れ替えたり、外出等生活のTPOにあった、衣類のコーディネートを手助けをして支援している。出張美容店によるカット、カラー、顔そり等が施設内でもできるようにしている。月に一度「粧いの日」を設け、口紅、マニキュア等ご本人に選んでもらっている。ゆかたや帽子、毛皮のおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の時は、季節を感じられる献立や、一人ひとりの体調や好みにも配慮し、食材によってはとろみをつけたり、ミキサーにかけたり、肉の駄目な人には魚や卵等に替えたりして対応している。じゃがいもの皮むき、お茶入れ、配膳や下膳等、スタッフと一緒にやっている。	「誰でもおいしい料理が食べたいでしょ」と、ひと手間加えた調理を利用者と一緒に考え、共に動いている。いりこの頭を取る調理に、その思いが象徴されている。食事中はテレビを消し、食事に集中している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量は，一人ひとりに合わせて記録して，状況を把握すると共に，体調に合わせて食事内容を見直している。入浴後、起床時、レクリエーションの後にイオン入り飲み物をご用意したり、ゼリー、プリン、ヨーグルト、牛乳等に置き換えて摂取していただく方もある。栄養補助食品を購入される方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯ブラシ、歯間ブラシ、義歯用歯ブラシを使って頂いている。難しい方はスタッフが行ったり、仕上げ磨きの援助をしている。義歯、コップ、歯ブラシも週1回消毒をしている。週1回、歯科衛生士による口腔内のケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をつけて、情報を共有している。排泄パターンや状況を把握してトイレ誘導、声掛けをさりげなく行い、夜間トイレへの移動に時間がかかって不安を訴えられる方には、ポータブルトイレをご用意している。また清潔を保つため、ホットタオルでの清拭をさせていただいている。	各利用者ごとの排泄チェック表で排泄パターンを把握し、スタッフの優しいトイレ誘導、夜間の移動の不安解消のためのポータブルトイレの配置など、きめ細かい配慮がされている。いろいろな取組みも、最終的には、「普通の生活」の排泄支援を目標としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便チェックとともに、食事であるべく野菜を多く摂取できる献立にして、便秘の予防に努めている。水分摂取もこまめにお勧めし、便秘時には状態に応じて、主治医から処方された薬も服用頂いている。毎日の体操や散歩も有効として、実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	原則的には3日に1回の入浴としているが，ご利用者一人ひとりの体調に応じて，シャワー、足浴、清拭等で対応させていただく事もある。	「比治山温泉に行こう」の呼びかけ、入浴を楽しむ多様な取組みをしている。皮膚科の医師の指導も得て、皮膚の弱い人には、石鹸を使用しないで、乾燥を防ぐクリームを塗るなどの支援もされている。冬期はヒートショックを避けるための温度差を生じない設備の配慮もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活パターンに応じて、エアコン温度、掛布団の調整、薬の服用、ホットミルク等の飲み物をお出ししたり、足浴をしたりして、より良質の睡眠がとれるよう支援している。体力のない方にはお昼寝をお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	介護職の弱点である薬の知識を得るため、提携薬局の薬剤師による部内研修を年に何回かテーマを決めて行い、感染症の知識と対応、薬の正しい服用、効能について学習している。新しい薬の処方があった場合、薬の解説と便覧を見たり、申し送り時にスタッフ間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日のレクリエーション、歌、しりとり、掃除、洗濯物たたみ、イリコの頭とり、牛乳配達、お盆拭き、食器洗いなどの生活リハビリで、それぞれの役割を持っておられる。初詣、花見、花火、盆踊り等の四季折々の行事や、畑で収穫される野菜に季節を感じ、散歩、誕生日会、音楽療法、ボランティアによる催しなどを通じて潤いのある生活を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑や隣接している公園に散歩に行き、日常的に戸外の風や空気に触れて頂いている。イベントへの参加、買い物、墓参り等にはご家族の協力をお願いしている。	比治山の麓の緑したたる自然環境に恵まれ、天候に応じて外気に触れる機会を設けている。中には、家族と医師の了解のもとに、タクシー運転手の協力により、一人で定期的に通院外出する、自立支援の事例もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を自分で持ちたいと言われる方には、家族の依頼により所持してもらっている。行事の時に買い物されたり、施設に来るパン屋さんで買い物されたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に電話をしたいと言われれば、使っていただいている。携帯電話を使われる方もあり、手紙の投函を頼まれる方からは、切手やはがきをお預かりしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関に季節感のある絵や生花を飾り、リビングには、毎月、ご利用者とスタッフで季節を感じる作品を作り、飾って、安らぎの空間になるよう工夫している。午前中はアロマデフューザーでレモンの香りを流している。食事に集中できるよう、テレビは消し音楽を流している。空気清浄器は年中、風邪予防のため冬は加湿器の湿度を60%に保つよう気をつけている。	共用空間の中にある、各利用者が安心できる居場所には、個別対応の理念が生かされている。ロビーの片隅に「小上がり」の小さな座敷の設営、洋と和の調和が居心地の良さを生み、昼間は、利用者全員がこの場で集い、活動している。近隣の人も気軽に立ち寄り寛ぎ、同席スタッフの笑顔がある。こうした仕組みづくりは注目される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者が一緒に過ごせる、テレビ前のソファセットや、離れて一人になれるソファやテーブルと椅子や、横になれる畳のプラットフォーム、ベランダのベンチなど、状態にあった過ごし方ができるための工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は使い慣れた箆笥や鏡台やテーブルと椅子、自分で作ったパッチワークのベッドカバー等、お気に入りの物、カレンダーや写真等、ご本人が寛いで過ごせる空間になるようご家族の協力も得て整えている。	陽あたりの良い窓際に、小さな観葉植物を育てている人、新聞を購読して机の上に並べている人など、自宅生活の延長線上に調度品を配置している。夜間の安眠の環境づくりと個性を配慮した快適な空間づくりに、各家族の願いとスタッフの気配りが、各居室の隅々に伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はご利用者の生活空間であり、寛ぎのリビング、食事スペース、レクリエーション空間、階段は、機能訓練としても使用し、多目的な生活・活動の場としている。能力に合わせて、手摺、歩行器、杖、車椅子等を使って、安全に移動できるような広さを確保している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 NTTグループケアポート広島

作成日 平成29年1月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援について、畑や隣接の公園には出かけているが、出かける回数がそれほど多くない。	戸外の空気に触れる機会を多くするため、外出回数を多くする。	お天気の良い日には、こまめに散歩に出かけ、畑・公園の木々花々などの季節の移ろいなど感じてもらうようにする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。